

## 第52回水の都ひろしま推進協議会【議事録（要旨）】

- I 日 時 令和5年（2023年）5月30日（火）14：00～15：15  
II 場 所 広島市男女共同参画推進センター 5階 研修室3、4（ゆいぽーと）  
III 出席委員 別紙のとおり  
IV 議事概要

### 1 審議事項

#### (1) 令和4年度事業報告及び収支決算について

《正本委員》

水辺のオープンカフェの利用者数について、令和2、3、4年度分の実績が事業報告に記載されているが、コロナ禍前の実績はどうか。

《事務局》

コロナ禍前の令和元年度は21万6,668人、平成30年度が21万4,491人、平成29年度が21万1,122人で、少しずつだが増加している状況だった。

《西名会長》

利用者数は回復してきているが、コロナ禍前には戻っていない。これは、Café REGALOの閉店やレモン&オイスターガーデン SANGOの休業があったことも一因と考えられるが、令和5年度は、それぞれの店舗が順調に営業することが期待できると思うので、コロナ禍前の状況に復帰してくれると願っている。

《岡村委員》

事業報告ではオープンカフェの利用者数やイベント等の報告があるが、現状で十分なのか、実施しているが何らかの課題がある状態なのか、何か考えがあれば教えてほしい。

《事務局》

目指すべき数値目標はない状態であるが、オープンカフェの目的が公共空間を活用したにぎわいの創出等のため、現状に満足することなく、利用者数を増加させていきたいと考えている。

《岡村委員》

コロナ禍前は21万人程度であったオープンカフェの利用者数に、あと2年程度で戻すとか数値目標や期間を設定することで、実績との差が課題となり、その課題にどういった対策を行うのかということに繋がると思う。

《西名会長》

ビジネス的に考えると数値目標があっても良いと思うが、それぞれの店舗が独自に営業していることもあり、営業に対してなかなか口を出せない状態である。水の都ひろしま推進協議会としては、オープンカフェの利用者数がより増加するように、河岸緑地に人が集まるような何かを考えると、直接的な協力ではなく、その場所の環境を整えていくことで、今後の展開を考えていくことになると思う。

《事務局》

事務局としても同意見である。水辺のにぎわいをより一層創出するために、我々も一所懸命にやっていきたいと考えているので、引き続き御協力をお願いしたい。

《佐々木会長》

G7が終わりインバウンドの増加が想定され、オープンカフェは、流川・薬研堀から近く、インバウンドにとって雰囲気的にも良いと思うが、インバウンド対応は何か考えているのか。

《事務局》

HIROSHIMA FREE Wi-Fiを整備し、外国人を含む観光客、市民も利用できるようにしている。また、店舗によっては、英語のメニュー表を用意する等で対応している。インバウンドが増加しているため、他に何かできることを検討していきたい。

《西名会長》

インバウンドが増加している現状では、店舗によっては利用者の半数近くが外国の方であると聞いているので、事務局からも説明があったとおり、英語のメニュー表を用意するとか、従業員の英語教育に力を入れることができるように、事務局から各店舗に働きかけを行うことも検討してほしい。

《山本委員》

利用者数の増加等、にぎわいの創出には事務局だけでなく、民間活用が必要不可欠であり、色々なアイデアを入れていかなければならないと思う。イベントに何度か行っているが、マンネリ化を感じる。今年度の事業計画はもう既に立っているの、今後に向けて何か準備をしていくべきである。例えば、冬が閑散期であれば、冬の風物詩やにぎわいを創出するとか季節ごとに考えるなどである。事務局だけでは大変なので、何か意見はないかと委員に尋ねてほしい。

《橋村委員》

コロナ禍以前の数値に戻すなど目標は大切と思うが、毎年テーマを決め、テーマに沿ったイベントを行えば、マンネリ化もなくなっていくと思う。事務局だけでは大変なので、委員全員で考えていけばいいと思う。

—原案のとおり承認—

## (2) 京橋川オープンカフェ（右岸）の次期出店者の決定について

《西名会長》

選定委員会の選定結果で497点となっており、最低限の水準480点を少しだけ上回る得点となっているが、どういった点に選定委員会の懸念があったのか。

《事務局》

前回（令和2年度）の選定委員会の資料が手元にないため、うろ覚えであるが、前回の得点もそこまで高いものではなかったと記憶している。委員から出た意見を何点か挙げると、一点目は財務状況があまり良くないというものである。ただし、これはコロナ禍ということ踏まえて、やむを得ないところもあるということになった。二点目は、この事業者は他にも店舗を行っており、店舗拡大のように感じられ、公共空間を活用することの意義というものをあまり感じられなかったというものである。三点目はインバウンド対応をどのようにするのかという疑問点があった。一方で出店への熱意や伸び代を感じられるという意見もあった。

《西名会長》

インバウンド対応は非常に重要であると思うので、出店の際には配慮してもらうように事務局からお願いしてほしい。

《山本委員》

出店者の吉長社長について、昔から知っており、元々お茶屋を営んでおり、彼女が継いでから一生懸命盛り立てようとして、色々な店舗を展開している。新しいスイーツの開発など努力されている方である。店舗拡大という意見があったと聞いたが、吉長氏の夫も市民活動を行っている方であり、市民活動的な視点についても、吉長氏は話をすれば理解してもらえらると思う。懸念材料があることもわかるが、ただの儲けだけでなく、地域住民とのコラボ等についても、話をすれば理解してくれるはずであるため、上手く指導してほしい。オープンカフェの中で和のスイーツを提供する店舗は他になく、外国人の需要もあると思う。繰り返しにはなるが、懸念材料もあるので、事業者への支援が肝要であると感ずる。

《佐々木会長》

インバウンドの話になるが、ビジネスホテルを利用する外国人は、どこに行くのがお勧めかをスタッフに聞いてくる人が多いため、周辺のホテルにチラシを置かせてもらって、オープンカフェへの動線を作ればいいと思う。

—原案のとおり承認—

(3) オープンカフェ出店者選定委員会会則の改定について  
(水の都ひろしま推進協議会規約第5条第7項の規定に基づき非公開)

—原案のとおり承認—

2 その他

第3次「水の都ひろしま」推進計画に関する意見交換

《水頭委員》

広島都心部において、川を活用した都心全体でのにぎわいづくりについて、民間主体の動きが見られるようになったので、そういった視点を取り入れてはどうか。また、経済界と行政が連携して広島都心のまちづくり推進を目的として設立されている広島都心会議において、広島都心の目指す姿や課題解決に繋がる具体的な施策を取り込んで、民間主体の実行計画を検討していると聞いているので、こういったこととも連動しながら、官民双方でしっかり議論して、実効性のある次期計画に向けた検討を行ってほしい。

《西名会長》

現行計画の第4章の「計画の推進等」で市民・事業者・行政の連携及び協同で、またエリアマネジメントについてもP17で一応触れられてはいるが、もう少し民間主体という視点を意識した内容に変えていければ良いと思う。また、水の都ひろしま推進計画は、広島市域・広島都市圏をどのようにつくっていくのかという、もう少し大きな都市計画やまちづくりとの連携や整合性がとられている必要があると思う。そういった点について、もう少し記載してあっても良いと思う。

《正本委員》

P14の底質改善の検討について、平成27年度の猿猴川のしゅんせつの記載があるが、その後の検討状況を整理した方が良い。また、先ほどエリアマネジメントの話があったが、京橋川左岸の河岸緑地においては、地域の方で桜の手入れ等を行う活動が約2年前から始まり、公共の施設を市民が手を加えて、もっと良くしていこうという活動を私が指導者としてやっている。にぎわいの創出だけでなく、このような地域参加の活動を育てていくことが大切だと思う。次に、サッカースタジアムの建設によって水辺への動線が大きく変化し、また、路面電車の駅前大橋ルートの新設によって、人の流れが大きく変化すると思うので、整理できればいいと考える。

《山本委員》

計画の対象の川の範囲は市の範囲より狭いが、健全な森林の育成・保全部分などについては対象範囲を広く捉えている。一方、川で活動している民間事業者の掲載が限定的である。川で活動する市民団体は多くいるので、視野を広げてほしいと思う。

《岡村委員》

この計画の“よりどころ”が平成15年に策定した「水の都ひろしま」構想であるが、社会情勢の変化があり、経済的な価値を求めるだけでなく、SDGsのような観点も盛り込んでいく必要があると思う。

《鈴木委員》

猿猴川のしゅんせつは平成27年度に行って以降行われておらず、京橋川については、しゅんせつが行われておらず、Hiビーズ（環境改善材）を活用されており、1、2年は少し蟹が増えたとかその程度で、ほったらかしになっている。やるのであれば、河川管理者は最後まで責任を持ってやってほしい。しゅんせつを行った場所は、現在泥だらけとなっている。しゅんせつを行うのであれば、費用の面もあるので難しいと思うが、定期的に行わないと意味がない。河川を綺麗にしないと「水の都」というのは笑われる。私も土曜日・日曜日は船を出してゴミを回収しているが、国や県も対策を考えてもらわないと困る。

《西名会長》

環境改善は非常に重要なことであり、一過性にならないように取組を継続することが大切だと思う。これと関連するSDGsの話も先ほどあったが、環境保全、持続可能な社会を形成するような今の時代に沿った社会通念に適合することが求められている。

## 出席委員

分野	所属	役職	氏名	出欠	備考
有識者	広島大学大学院	教授	西 名 大 作	○	
	比治山大学	教授	山 田 知 子	欠	
	近畿大学	教授	市 川 尚 紀	欠	
市民 団体等	ポップラ・ペア レンツ・クラブ	幹事	正 本 大	○	
	京橋川かいわい あしがるクラブ	代表	山 本 恵由美	○	
	広島市内水面漁業 協同組合	代表理事組合長	鈴 木 修 治	○	
経済・ 観光等	(一社)広島県観光 連盟	専務理事	岡 村 清	○	
	(一社)広島県生活 衛生同業組合 連合会	会長	佐々木 克己	○	
	(一社)日本旅行業 協会中四国事務局	事務局長	橋 村 秀 樹	○	
行政	国土交通省	中国地方整備局 企画部広域計画課長	佐々田 敬久	○	
		中国運輸局観光部 観光地域振興課長	柏 木 実	○	
	広島県	土木建築局 河川課長	水 頭 頭 治	○	
	広島市	経済観光局 観光政策部長	中 田 忠	○	